

で、途中にソファを置いて足を休められるようにしています

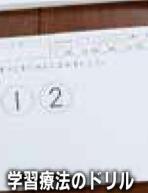
●これだけ広いと安全への目配りも大変そうですね……。

佐藤 「それでも身体拘束は極力行わざ、できるだけ自由に動いていた

だっています。拘束することによるご本人の苦痛や廃用症候群といったデメリットと、拘束しないことによる転倒や骨折といったリスクの増加、その双方をご家族にも説明して理解をいただいています」

●転倒や骨折のリスクにはどう対応されるんですか?

佐藤 「骨折をご本人が自覚できないケースもあるので、それぞれの患者さんの歩き方や行動パターンを普段から観察・把握するよう心がけています。歩き方や行動が普段と少しでも違っていたら、足や脳に何らかの異状が起きている可能性がありますから」



学習療法のドリル



回想療法で使われている懐かしの道具

さらなる取り組みとして、学習療法と回想療法を紹介してくださった。

学習療法は患者さんのレベルに応じて、計算問題や筆記課題を行うことによって、機能回復の促進が期待される。頭脳も使わないまま退化してしまう点では、身体と同じようだ。

回想療法は患者さんが集つて、昔の想い出話を共有することによって、不安や焦燥の軽減といった精神的な安定が期待される。認知症の患者さんは、新しい記憶を定着させるのは難しくても、昔

の記憶はしっかりと残っていることが多いので、想い出話になる

と盛り上がって楽しい

ひと時を過ごしていた

だけなのだ。

●回想療法で使われて

いる道具を見せていた

だくと、お手玉に湯たんぽ、お手玉、けんかゴマ、メンソコ、そろばん：

●時代を感じる品々が

ずらりと並ぶ。自分が高齢者になつたとき

に回想療法で使われるは何だろうかと、つ

い思いをはせてしまった。ガンダム、なめ猫、

ゲームウォッチ、ドラクエ、ガラケー……完

全に年代がバレますね(笑)。

●詰所にもひと工夫

ホールに面するサブステーション(詰所)

には、患者さんの作品だけでなく、本日の日付が大きく張り出されていた。

●これも治療的な意味があるんでしょうか?

佐藤 「今日は何月何日か? ここはどこか? といつた見当識を持つていただくための工夫です。これらも全て詰所のガラス内側に貼り付けて、紙の誤食が起きないように留意しています」



サブステーション

間が終了したので、浴室を見学させていただることに。

足を踏み入れるとそこは、隅々までキレイに磨き上げられ石鹼のいい匂いが漂つ、ホテルの大浴場とながわぬ清潔感あふれる浴室だった。

一般的な浴槽と違うのは、階段がしっかりと付いている

点だろうか。転倒を防ぐための安全配慮が徹底されている。

浴槽の隣ス

ペースには、な

にやら未来の入浴マシンの

ようなものが置かれていた。

●コレは何ですか?

佐藤 「車椅子の患者さんな

どに、座ったままの姿勢で入浴していただくためのものです。この業界では以前から使われていて、目新しいものでは全然ないですよ(笑)」



苦労はしのばれるけれど、人って面白いものだなあとつくづく思う。

●認知症の患者さんと関わる現場は、やはり大変な面も多いのでは?

佐藤 「それが、病棟スタッフも私も疲弊せず楽しくがんばっているんです。これは私がC6病棟に来る以前から育まれている財産として、いま感じている雰囲気ですね」

●それは何がいいのでしょうか。

佐藤 「認知症の患者さんって世間一般的イメージとは違って、コミュニケーションが豊かに築ける患者さんが多いんです。たとえ記憶の連続性は無くても、こちらが誠実に関わると患者さんもそれにしっかりと応えてくださいます。それが日々嬉しくて、だからこそ患者さんが失禁されたりしても笑顔で対応できている気がします」

こうおっしゃる佐藤さん、これからも素敵なかみで患者さんの力を引き出していってください!

(取材と原稿／臨床心理士・名倉)



佐藤和子 (さとう かずこ)

●お仕事への思い

浴室に潜入!

出話を共有することによって、不安や焦燥の軽減といった精神的な安定が期待される。認知症の患者さんは、新しい記憶を定着させるのは難しくても、昔